

株式会社テックビルケア  
代表取締役

PICK UP

THE PERSON

# 茶橋 昭夫

KEY WORD

## 屋台骨

— yataibone —

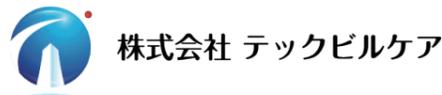
建物の高寿命化が進む一方で、全国的に自然災害が増加している昨今。建物の「安全」と「未来」を守る防災設備の重要性が高まりを見せている。そんな消防設備の保守点検、建築設備・建築物の調査検査を手掛ける『テックビルケア』は、本社の大阪から東京、そして全国へと事業を展開している。そんな飛躍を牽引しているのが、同社の二代目・茶橋社長だ。先代が築き上げた会社を、さらなる発展へと導いてきた社長が次に見据えるのは、海外への事業展開。国内外の建物と人々の暮らしを、屋台骨として支え続けていく。



「建物の安全と未来を守る。  
この事業を国内外へ広げたい」

# 茶橋 昭夫

代表取締役



株式会社 テックビルケア

【大阪本社】大阪府摂津市鶴野 4-10-22  
【東京支社】東京都品川区南大井 3-16-3  
オフィスベルメイト 8階  
URL : <http://www.techbuilcare.com>

「安全を守るもの」を守っているのは、人の責任感

## 大阪から日本全国、そして世界へ—— 躍進する防災・建築設備・建築物点検会社

消防設備点検をはじめ、建築設備インフラを支える保守・点検業務を幅広く手掛けている『テックビルケア』。元々は清掃業でスタートした同社は、二代目・茶橋社長のもとで現在の業務へと拡充。近年では東京支社を構え、営業エリアは全国へと拡大している。同社はどのような道のりを歩み、今日の躍進へと至ったのか。タレントの布川敏和氏が、社長にインタビューを行った。

世代が違えば考え方も異なるものですが、それでも私の考えを伝えると、「じゃあやってみろ」と言ってくれた。そこは本当に感謝しています。

お父様は社長の考えや熱意を信じられたのでしょうか。

父は個人的な人付き合いや既存のお客様からの紹介といった、人とのつながりを大事にしていました。私は個人の人脈では人数もエリアも限界があると思っ、ネット集客に力を入れてきました。父が重んじていた人とのつながりも大事だと心得ています。昨年4月に代替わりを行って父は会長職に就き、経営の実務は私に任せてくれていますが、この会社は父の人生そのものですので、大事な部分はしっかりと守り継いでいければと思っています。

代替わりをされて1年ちょっとです。今後としては、どのような目標を？

昨今は空き家問題が社会課題となつてますよね。高齢化は今後も進みますから、空き家問題もますます深刻化していくと思います。建物の「未来を守る」「安全を守る」ことが当社の事業ですから、「空き家問題」×「高齢化社会」という社会課題の解決の一助になるようなビジネスを展開したいとも考えています。

また、今はお除様で東京にも進出している他、お問い合わせをいただいで全国各地に行かせていただいています。防災設備はどの場所のどんな建物でも必要なことですから、日本の高いメンテナンス技術を活かして、今後は海外の設備保守・建築物の維



持管理にも進出したいですね。アメリカや中国、あるいは東南アジアも良いかもしれないと考えています。

大阪から全国へとエリアを広げ、次は海外ですか。それは大きな夢ですね。

私がかような話をする、社員は目が点になるんですよ（笑）。でも、6年前に初めてこの大阪の一地方から「東京に行くぞ！」と言った時も、最初はみんな「え？」という顔でした。それでも皆で東京進出を実現し、今では3分の1ほどの売上を東京で上げています。もちろん海外進出は容易なことではないと思いますが、それでも大きな目標に向かっていきたいですし、この挑戦にワクワクしてくれるような、「行きたい」と言ってくれるような社員が出てきてくれれば嬉しいですね。意欲のある人がいれば信頼して任せたいと思っています。

楽しみな未来があるのは、社員さんにとっても大きなモチベーションになりそうです。では最後に、未来を担う若い社員さんたちへのメッセージをお願いします。

昔は上から言われたことを遂行するトップダウンが主流でしたが、今は一人ひとりが自分で考え、意見を発し、行動していくボトムアップの時代だと思います。当社も風通しの良い会社を目指し、しっかりと自分を持った人材を必要としているんです。だから若い世代には、自ら情報を集めて知識を養い、自分の意見をアウトプットしてほしい。色んなことにチャレンジしてほしい。そんな言葉を伝えたいですね。

茶橋社長は二代目でいらっしゃるそうですね。早くから後継者としての意識はありましたでしょうか。

若いころはそこまで考えてはいませんでしたね。成長する過程で責任感が芽生えていったように思います。私は小学校までを地元で過ごし、中・高は岐阜県で寮生活をしていました。高校生の時にはニュージールランドへ1年の語学留学も経験し、異なる文化に触れ、外から日本を見ることで、自分の中の世界観が大きく変わりました。高校卒業後には地元へ帰り、家業の後継者を見て「関西大学」の工学部に進みました。

大学卒業後、家業に入られたのですか。

いえ。個人的にも一度外に出ようと思っていましたし、父も「外の釜の飯を食え」という意向でした。私はパソコンが好きだったものから、まずはプログラマーとしてシステム会社に就職。次にエアコンメーカー、その後は防災設備会社と、計3社を渡り歩き、それぞれで2年間お世話になりました。当初から家業に戻ることを想定していたので、2年と期間を定め、家業で活かせる経験を積んでいきました。2年という期限があるので、毎日何かを学び取るという意識がありましたし、通勤電車でも専門書やビジネス書を読み、中身の濃い時間を過ごせたと思います。

そうして下地を養い、満を持して家業に加わられた。

ええ。ちょうど30歳の時で、結婚するのと同じタイミングでした。実は、当時の当社は清掃業がメインだったんですよ。お陰様で少しずつ会社は大きくなっていききましたが、さらに成長していこうと考えれば、清掃業だけでは厳しい。これが父の考えで

した。そこで消防設備関係の業務に着手し始めたのですが、私が入った10年前はまだ1割程度に過ぎませんでした。

では、社長が主導して現在の事業へと拡充されていったわけですか。

おっしゃる通りです。私自身、勤務時代に清掃業は一切学んではいませんでしたし、私が生きる道は消防設備関係しかないと考えていました。とは言え最初は仕事が全然なかったもので、まずはHPを作り始めたんです。当時この業界にはインターネットで集客する企業がほとんどなく、今でもそれほど多くはありません。だからこそ「これはいける」という自信があり、自分の手でHPを作り、インターネット広告なども勉強して活用していきました。そうすると次第に結果が出てきて、消防設備関係がメイン事業に。今は新規顧客の9割以上がインターネットからのお問い合わせです。

最初は1割程度だった事業が今では主力となり、インターネット集客もメインになっている。社長の代で全く新しい会社に生まれ変わったかのようなのです。

そうですね。私が入った当時は今より従業員が多く、100人ほどの体制でしたが、そこも事業拡充の過程で少しずつ整理していきました。ずっと残ってくれている社員もいますし、新しい仲間も増えて、今も人も会社も新しくなっています。私より若い人を積極的に採用してきましたので、若返りも進み、今の平均年齢は30代。年齢層が高いこの業界にあって、当社は驚かれるくらい若いんですよ。

こうした変革を進める上で非常にありがたかったのは、父が私のやりたいことを全て自由に任せてくれたことです。もちろん



「勤務時代から後継者の意識を持ち、そのための経験を地道に積まれていた茶橋社長。『目標を定め、そこに向けて努力を続けるのが得意』とのことで、実際に家業に入ってから経験を活かして発揮されてきました。海外進出という次なる目標にも、一歩ずつ着実に進み、いつか成就されるんじゃないかと期待が尽きません。今後も頑張って下さい！」 布川 敏和

guest comment

### check Point いつも胸に感謝の気持ちを

- ▼「謙虚さ、そして感謝」——茶橋社長の仕事における流儀を伺うと、そんな答えが返ってきた。社長は経営者となった今もなお、お客様はもちろん共に働く仲間に対しても、努めて謙虚に振る舞い、感謝を忘れない。そして、そんな感謝の大事さは社員にも説いているという。
- ▼「テックビルケア」では全社員が日頃書いている業務日報において、「週1回、感謝したことを書く」というルールを設けている。「お客様でも同僚でも家族でも、内容は問いませんが、何か自分の中に感謝の種を見付けてもらっています」と社長。仕事で忙しいと、どうしても日々の感謝を忘れがちになる。数字に追われるうち、大事なことを見失ってしまうこともある。それでも社長は「数字ももちろん大事ですけど、もっと大事なことが他にある」と話した。
- ▼何にも増して感謝の気持ちを大事にする。そんな方針によって、「感謝」は「テックビルケア」という会社の根幹を成すものとなっている。それこそが、お客様からの高い評価や社内の良い雰囲気醸成し、右肩上がりに飛躍を続ける要因なのではないだろうか。